

## 2023 年度までのマイクロプラスチック調査結果の概要

### 1 調査日（2023 年度）

（夏季）2023 年 9 月 6・7 日

（冬季）2024 年 1 月 18・19 日

### 2 調査地点

① 鶴見川・亀甲橋（左岸・中間・右岸）

② 帷子川・横浜新道下

③ 境川水系柏尾川・吉倉橋

### 3 調査方法

「河川・湖沼マイクロプラスチック調査ガイドライン」

（2023 年 3 月、環境省）に準じた方法

### 4 調査結果

#### (1) 個数密度について

- ・ 帷子川・横浜新道下は、鶴見川・亀甲橋及び柏尾川・吉倉橋と比べて、調査時による変動（ばらつき）が小さかった。（図 2）
- ・ 2021 年度（R3）から 2023 年度（R5）にかけて、横浜新道下及び吉倉橋は、個数密度と調査日前 10 日間降雨量との間に相関がみられた。（図 3）

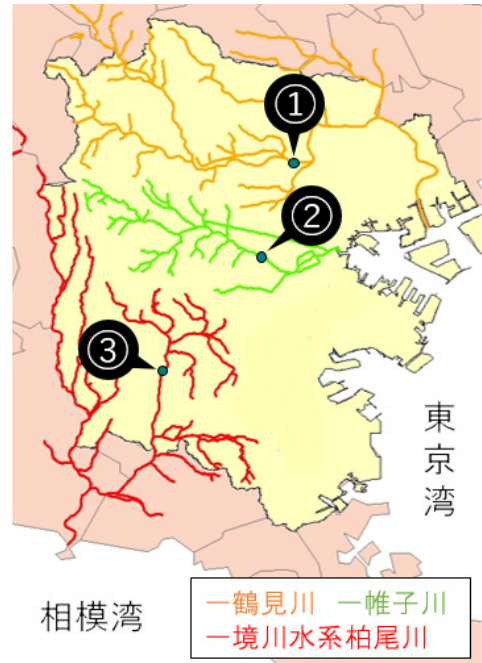


図 1 調査地点

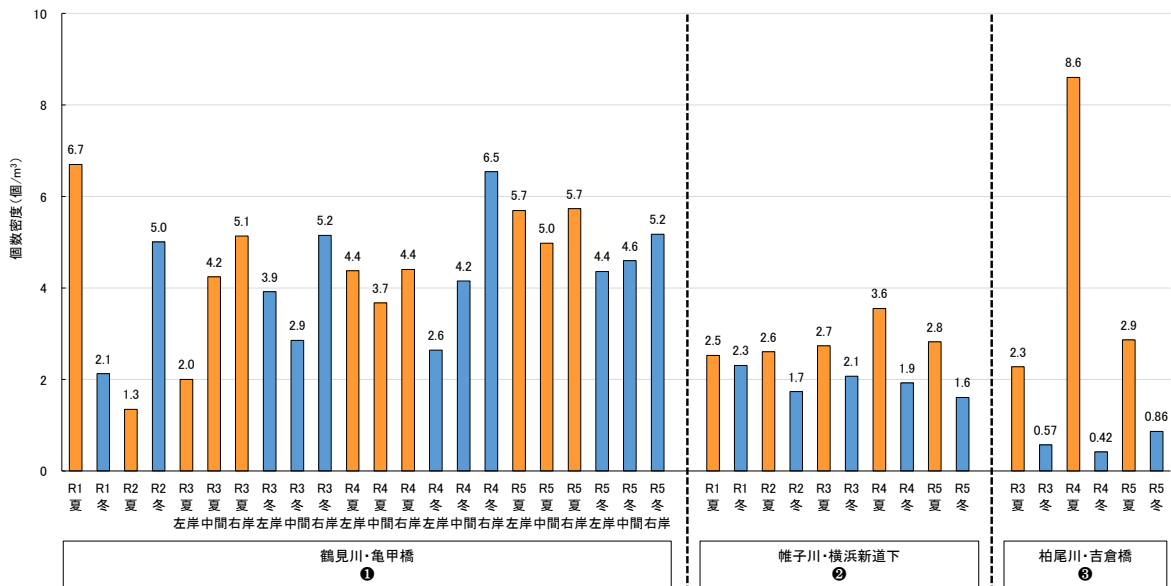


図 2 個数密度

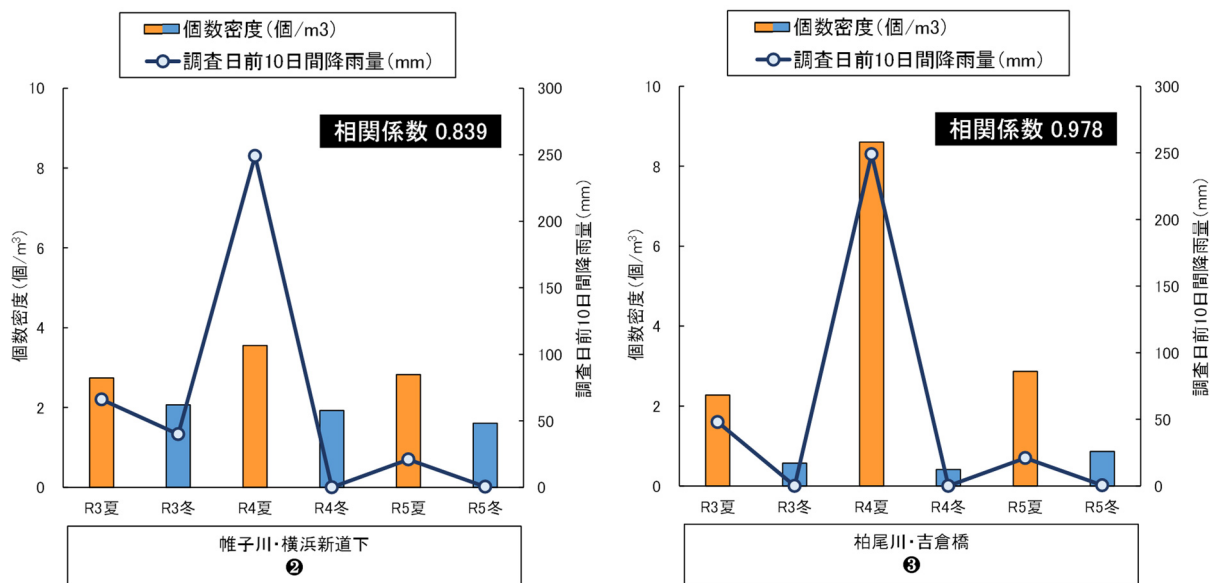


図3 個数密度と調査日前10日間降雨量の関係

(2) 形状と材質について

- ・形状は、2019年度夏季 (R1 夏) の亀甲橋を除き、すべての調査において、「破片」と「膜・シート状」で全体のうち7割以上を占めた。(図4)
- ・材質は、すべての調査において、ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリスチレンで全体のうち7割以上を占めた。「その他プラスチック」の内訳としては、ポリエチレンテレフタレート、ポリアミド (ナイロン)、ポリメタクリル酸メチル等のアクリル樹脂類などが主に採取された。(図5)

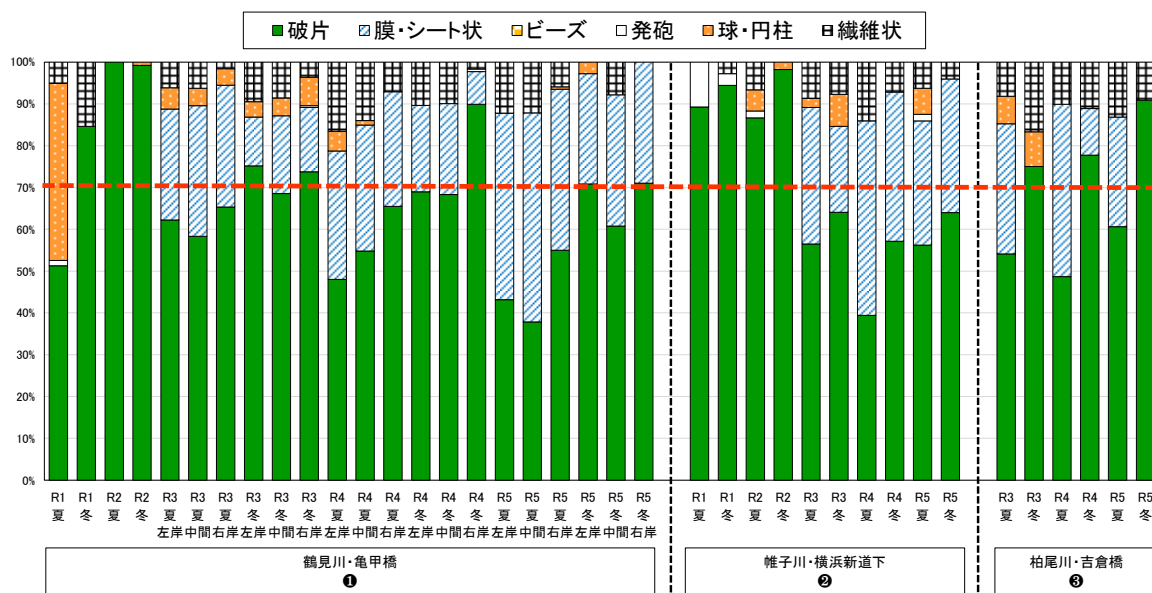


図4 形状別の割合

(注) R2 以前は「膜・シート状」は「破片」に含まれる。

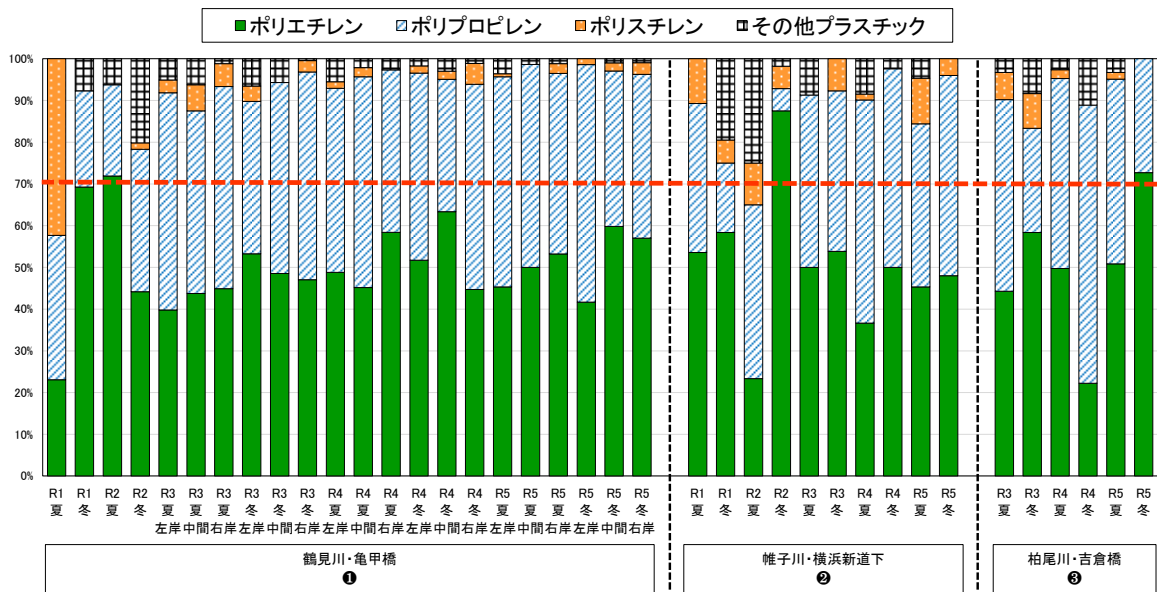


図5 材質別の割合

(3) 元のプラスチック製品の推定について

- ・採取されたマイクロプラスチックについて、元のプラスチック製品を推定し、「人工芝」「発砲スチロール」「ポリスチレン (PS) 粒子」「ペレット」「不明」に分類して集計した。(図6)
- ・すべての調査において、「不明」が5割以上であった。(図6)
- ・すべての調査地点において、「人工芝」及び「ポリスチレン (PS) 粒子」と推定したマイクロプラスチックが採取された。(図6)

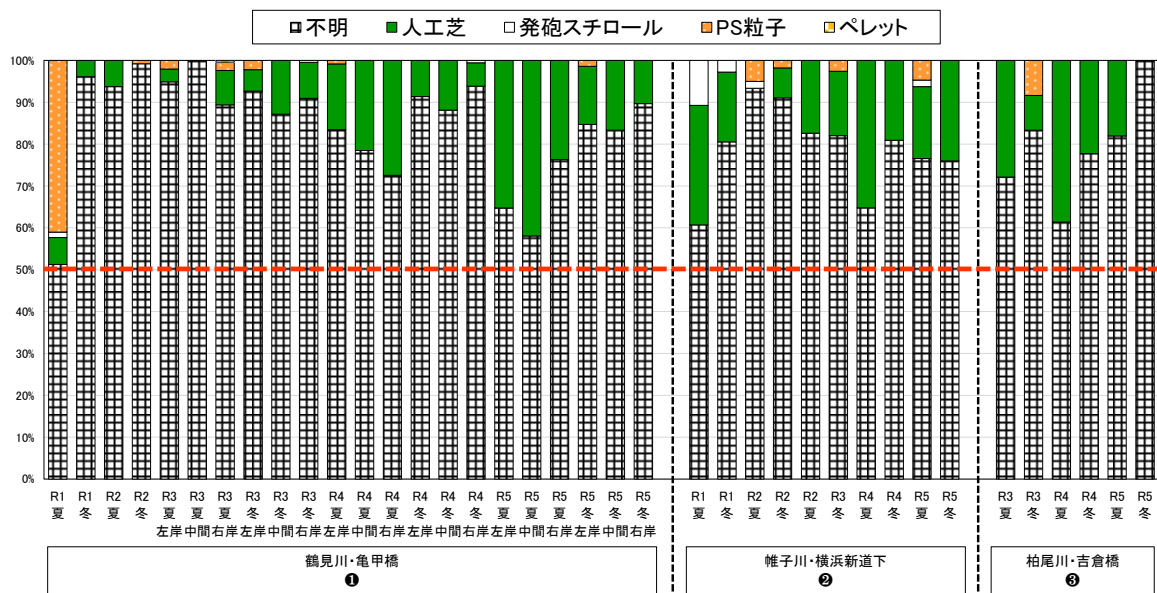


図6 元のプラスチック製品の推定別の割合